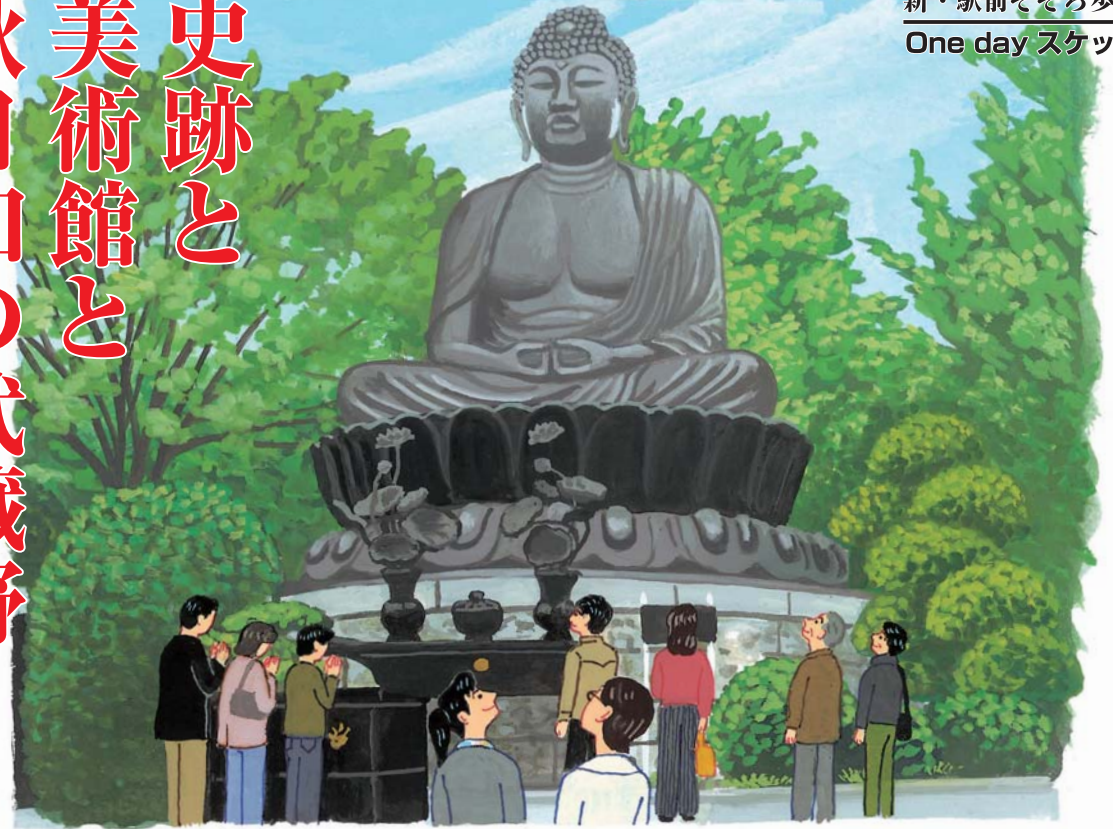


# 史跡と 美術館と 秋日の武蔵野



こんにちは、あずまです。今月は東上線『下赤塚駅』からの散策を楽しみました。ここは「板橋十景」にも選ばれている乗蓮寺の東京大仏。高さ13m、重さ32tもあります。悲惨な戦災や震災が起きないように、という願いを込めて昭和52年に建立されたそうです。(MAPの①)

## 今回の登場人物

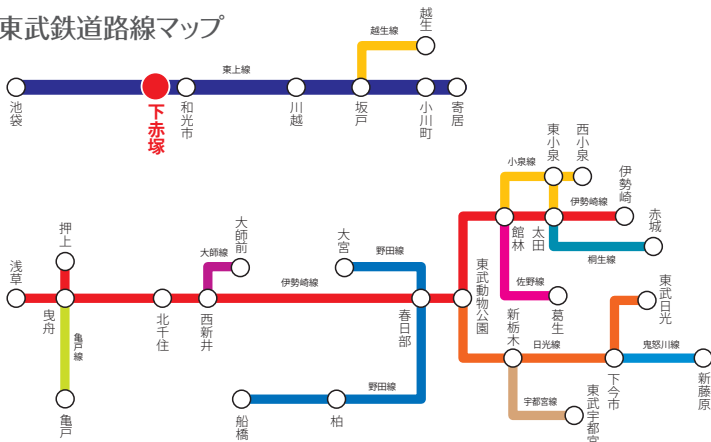


筒谷 幸子  
あずまの先輩講師で、相談相手でもある。趣味は家庭菜園。



業平あずま  
業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。趣味は旅行。

## 東武鉄道路線マップ



# 下赤塚

(しもあかつか)

「下赤塚」といえば、東上線で池袋から8番目の駅。気軽に訪れられる都内にありながら、いまも武蔵野台地の面影を色濃く残します。町並みの奥には、のどかな丘陵地帯が広がり、東京大仏や、時代を遡る史跡の数々が点在しています。しかも、赤塚城跡近くには、近代的なコレクションで知られる板橋区立美術館があるように、昔と今の文化が、さり気なく共存していることも大きな魅力といえるでしょう。散策を彩る樹木や野草さえ、今はすっかり秋色です。





ここは「松月院大堂」。  
鎌倉時代以前は  
七堂伽藍を備えた  
大寺だったそうぞ  
すが、上杉謙信の  
焼き討ちにあつて焼  
失。この釣鐘は  
レプリカですが、国  
の重要美術品に  
指定されている  
金銅鐘は、区立郷  
土資料館で大切に  
展示されていま  
したよ。(MAPの㊸)



池袋から普通電車で8駅目、約16分で「下赤塚駅」  
に到着。南口から徒歩約2分には東京メトロ副都  
心線・有楽町線の「地下鉄赤塚駅」があり、渋谷  
方面へ行くにも便利。北口駅前から続く  
「赤塚一番街」は、活気に満ちた商店街!



ランチに入った「蕎麦 ひびき庵」。自家製の粉  
で石臼挽きの本格派。店内はとても清潔。私は  
普通のそばと季節の変わりそばを二種盛り  
にした、「二色せいろ」をいただきました。手打ち  
うどんも美味しそうだったな〜。(MAPの㊹)



園芸が趣味の国谷さんが楽しみにしていた。  
ここは「赤塚植物園」。万葉・薬園、日本庭園、  
香りの散歩道、郷土の木や四季の道などさま  
ざまなテーマで「見せてくれます。開園30周年記  
念の写真展も開催していましたよ。(MAPの㊺)」

は、面白い発見も隠されているようです。

松月院の十字路まで来ると、駅から続く道の名  
前が「東京大仏通り」と変わるように、あの奈良・  
鎌倉につづ青銅の大仏がいらつしやる「乗蓮寺」  
は徒歩数分です。東京大仏は総丈13m。戦災・  
天災で逝つた多くの人々を悼み、平和への願いを  
込めて昭和52年に開眼されました。乗蓮寺は室町  
時代に開山された古刹。慈愛に充ちた大仏の傍ら  
には、天保の飢饉に倒れた人々の供養塔が、江戸  
の頃から残されています。また、境内で出会う様々  
な古い石像にもご注目。そのユーモラスな表情に

蔵品として、後でじっくり鑑賞できます。

ここでちょっと寄り道して、近くにある「松月  
院大堂」へ足を運ぶのもおすすめです。創建は平  
安初期まで遡り、板橋区最古の寺とされるだけに、  
苔むした静かな佇まいは、やはり圧巻。特に銅鐘  
は国の重要美術品ですから、現在の鐘楼にはレプ  
リカが吊るされ、実物は「区立郷土資料館」の所  
蔵品として、後でじっくり鑑賞できます。

一本道をたどって

平和を祈る。大仏様々に会いに行く

下赤塚駅の北口から、なだらかに伸びる「赤塚  
中央通り」。そのどこか懐かしい町並みに導かれ、  
赤塚の古い歴史の世界へと入っていきましよう。

やがて前方に見えてくるのが、緑深い「松月院」。  
戦国時代の赤塚城主・千葉自胤の菩提寺であり、  
後に徳川家康から40石の朱印地を寄進されたとい  
う由緒ある史跡です。凜とした境内は広々と奥深  
く、大イチョウなど保存木の色づきも美しい。珍  
しい大砲型の碑がありますが、これは、この寺院  
を本陣として、日本初の西洋式砲術訓練を行った  
高島秋帆を顕彰したものです。





美術館そばの丘を上がると、「赤塚城跡」の広々とした空間が。室町時代に千葉氏の拠点として築かれたもので、中世の典型的な平山城といわれています。1590年に秀吉軍に攻められ、廃城になったそうです。(MAPの⑤)



芸術の秋、というわけで「板橋区立美術館」へ。「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」や江戸時代の絵画コレクションで有名です。私たちが行った日は「区民文化祭」で、区内在住の美術家の作品展が行われていました。(MAPの⑤)



毎年2月13日の夜、国指定の重要無形民俗文化財「田遊び」の神事が奉納される「赤塚諏訪神社」です。創建は室町時代の文明年間といわれ、赤塚城の鬼門除けにされたそうですよ。(MAPの⑥)



釣り人で賑わう溜池の横に建つ「板橋区立郷土資料館」。この古民家は、江戸時代後期に建てられた「田中家住宅」です。館内では、「明治大正期の人類学・考古学者伝」などの企画展が開催されていました。(MAPの④)

雑木林や溜池公園に憩い  
美術館では充実のひとつときを

東京大仏のお膝元に隣接する「区立赤塚植物園」は、今まさに秋景色。園内に保存される樹木や草花は600種を超えると聞きます。万葉集に詠まれた植物や薬草を集めた「万葉薬用園」もあり、かつての武蔵野の自然を満喫するひとときです。

こうして道筋は、「赤塚城跡」と「赤塚溜池公園」へと進みます。赤塚城跡は雑木林の丘に、今は昔の本丸の碑などを残すのみですが、その丘の裾野は広々と開けた公園に活用され、釣り人が糸をたれる溜池や、梅園で知られています。

なかでも、園内に建つ「区立美術館」は、ぜひ訪れたいところです。ここは、都内でも区立として初めて誕生した美術館。近世と近代美術のコレクションが充実し、恒例となった「江戸文化シリーズ」など、意欲的な企画展が開催されています。良き赤塚の史跡を背景に、新しい息吹を発信する拠点ともいえるでしょう。一方、公園の溜池側にある「区立郷土資料館」では、板橋の古代からの歴史が、資料とともに展示されていて興味深い。史跡巡りを知的にバックアップしてくれます。

他にも、この赤塚の丘陵地帯には様々な見どころが隠されています。国の重要無形民俗文化財に指定されている「田遊び」の神事を伝える「赤塚諏訪神社」や、豊かな水田稲作風景を再現した「水車公園」など、いずれも徒歩圏内。おいしいお蕎麦を食べたり、お茶で一休みしても、半日ほどで気軽に回れます。イラストマップ片手に、お好みのコースを組み立ててください。この散策は、秋日和によく似合います。







新大宮バイパスを横断してやってきた「水車公園」です。農業の歴史と暮らしを再現するため、水車と水田を復元したもの。池があり、炭焼窯があり、日本庭園や滝、茶室まで備えています。のどかな気分を味わえました！（MAPの⑪）



「板橋十景」のひとつ、「松月院」です。赤塚城に居城した千葉自胤の開基と伝えられます。高島秋帆が日本初の西洋式砲術訓練を行った際の本陣だったとか。また『次郎物語』の作者、下村湖人の墓もありました。（MAPの①）



乗蓮寺



**下赤塚データファイル**

〈板橋区立赤塚植物園〉・・・●交通＝下赤塚駅徒歩16分  
 ●開園時間＝9:00～16:30（12月は～16:00）●休園日＝年末年始（12/28～1/4）＊事務室、緑の相談室は月曜休館（祝日の場合は直後の平日）●入園料＝無料＊開園30周年記念「緑のフォト展～まちは植物園！」（10/1～10/14＊10/3、10/11はお休み）☎03-3975-9127、開花情報テレホンサービス☎03-3938-1000

〈板橋区立美術館〉・・・●交通＝下赤塚駅徒歩22分、成増駅北口2番のりばから「増17系統 美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車 ●開館時間＝9:30～17:00（入館は～16:30）●休館日＝月曜（祝日のときは翌日）、年末年始（12/28～1/4）、展示替え期間中 ●観覧料＝展覧会ごとによります。毎週土曜は小中高校生無料 ☎03-3977-1000

〈板橋区立郷土資料館〉・・・●交通＝下赤塚駅徒歩23分、成増駅北口2番のりばから「増17系統 美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車徒歩1分 ●開館時間＝9:30～17:00 ●休館日＝月曜（祝日のときは翌日）、年末年始（12/29～1/3）●入館料＝無料＊10/8（土）～11/20（日）は「明治大正期の人類学・考古学者伝」開催 ☎03-5998-0081

〈蕎麦 ひびき庵〉・・・●交通＝下赤塚駅徒歩20分 ●営業時間＝11:30～14:00、17:30～21:00（L.O. 20:30）●定休日＝水曜、第1火曜 ☎03-6780-0001